

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和3年3月29日

提出区分	実績	整理番号	1	課題区分	C
横断的な課題	北アルプスの雄大な自然と安曇野の田園風景を活かした観光振興				
地域重点政策	2 四季折々に訪れ、北アルプスと安曇野の自然を満喫できる観光地域づくり				
実施機関	北アルプス地域振興局		担当課	所属	総務管理・環境課
事業名	白馬村「杓子沢氷河」調査事業			電話	0261-23-6563
				E-mail	kitachi-kankyo@pref.nagano.lg
事業の概要等	目的 (目指す姿)	希少性を有し、有力な観光資源であるとともに、気候変動の影響が顕著に表れる「氷河」の新たな認定を通じて「HAKUBA VALLEY TOURISM」における「氷河ブランド」の強化、発信を目指す。			
	現状と課題	【現状】 現在、日本で氷河と認定されているのは7例あるが、そのうち2例(カクネ里、唐松沢)は北アルプス地域振興局管内にある。いずれも積雪や地形の条件から飛騨山脈の富山県と長野県のみ存在が確認されており、その他氷河であることが有望視されている雪渓は白馬村内に3つある。 【課題】 日本の氷河は世界の氷河の中で、低緯度かつ低標高の場所に分布しており、特異な存在であるが、その形成過程等学術的な解明がなされていない。新たな氷河の認定とともに、その全貌を解明することにより、世界の中の日本の氷河のブランド価値を高め、エコツーリズム等観光や環境教育への活用等地域交流の活性化を図る。			
	内容 (変更後の内容)	氷河であることが推定される「杓子沢」及び「白馬沢」の調査について、長野県と白馬村が共同で新潟大学に委託するとともに、環境保全研究所が調査に参画する。 調査内容 ・杓子沢雪渓及び白馬沢雪渓氷厚測定及び内部流動測定 ・航空測量による高精度地形図の作成 ・唐松沢氷河の継続調査(移動量調査)			
	事業期間	令和2年4月 ~ 令和3年3月			
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(変更)額	備考	
	委託費	氷河認定調査	1,883,000	全体額5,650千円のうち県1/3、白馬村2/3を負担する。	
	合計		1,883,000		
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況
	氷河の認定		1	0	○ 達成 ○ 一部達成 ● 未達成
事業実績・成果	以下に示すような調査、資料整理を行った。 【雪渓の現地調査】 ・調査対象雪渓全体:航空測量による高精度地形図の作成完了。 ・杓子沢雪渓:現地踏査及び氷厚測定を1回実施。 ・白馬沢雪渓:現地踏査が完了。GNSS測量の基点作成。 【資料整理】 ・航空測量による高精度地形図の完了。 ・杓子沢雪渓にて実施済みの氷厚測定結果の整理の完了。 新型コロナウイルス感染症対策や悪天候の影響により、当初予定された調査内容の一部見直しが必要となり、新たな氷河認定には至らなかったが、調査を完了した杓子沢雪渓については、アイストンネルが確認されておらず、氷河である可能性を示唆する氷厚データが得られるなど次年度につながる成果が得られた。				
今後の方向性	引き続き氷河認定に必要な調査やデータ整理への支援、HVTが行う氷河を観光資源として活用するための戦略策定やコンテンツ開発を支援する。				